

松嶋夜話 卷之下 52

〔原文〕次日慈恩法弟來而迎駕

〔訓読〕次の日、慈恩の法弟來りて駕を迎え

〔原文〕飾船往廣田

〔訓読〕船を飾って廣田に往く

〔原文〕海路右之濱有可盤石容數十人者

〔訓読〕海路の右の濱に磐石數十人を容れる者有り

〔原文〕昔日先中納言漁游月駐餐此石上云

〔訓読〕昔日先の中納言漁游の日、此の石の上に駐餐して云う

〔原文〕已著廣田濱

〔訓読〕已に廣田の濱に著く

〔原文〕村下男女竈婦牧童烏合相鳩數席沙上

〔訓読〕村下の男女、竈婦、牧童烏合し、相い鳩まり、席を沙上に敷く

〔原文〕合十低頭

〔訓読〕合十、頭を低くす

〔原文〕入于寺淹留串日

〔訓読〕寺に入りて淹留し、日を串(つらぬ)く

〔原文〕其間受聖號需法名

〔訓読〕其の間に聖號を受け、法名を需(もと)め

〔原文〕請墨字思欲画贊

〔訓読〕墨字を請ひ、画贊を思欲す

〔原文〕而毛邊疊于前

〔訓読〕毛邊前に疊(かさ)なる

〔原文〕震良似無暇

〔訓読〕震良、暇無きに似たり

※震良…人名？方角？

〔原文〕適院主請余往末崎碁石濱

〔訓読〕適たま院主余に請ひて、松崎の碁石濱に往かしむ

〔原文〕黒石如盤布矣

〔訓読〕黒石、盤に布くが如し

〔原文〕又華藏寺主携行厨來

〔訓読〕又た華藏寺の主、行厨を携え來る

〔原文〕厨了

〔訓読〕厨了りて

〔原文〕經泊濱至熊野別當法雲院

〔訓読〕泊濱を經し、熊野の別當法雲院に至る

〔原文〕三神大社也

〔訓読〕三神大社なり

〔原文〕此社神龜年中一隻之舩南海流來

〔訓読〕此の社は神龜年中に一隻の舩、南海より流れ來たる

〔原文〕泊此泊濱

〔訓読〕此の泊濱に泊まる

〔原文〕此所從是有此名

〔訓読〕此の所、是より此の名有り

〔原文〕流舩之長六間餘

〔訓読〕流舩の長さ、六間餘

〔原文〕中奉三社

〔訓読〕中に三社を奉ず

〔原文〕外祭器樂器數多

〔訓読〕外の祭器樂器數多し

〔原文〕在今殘者十五種

〔訓読〕今に在りて殘る者十五種

〔原文〕就中有大鼓一箇

〔訓読〕中に就ひて、大鼓一箇有り

〔原文〕見其木匡内輪

〔訓読〕其の木匡の内の輪を見る

※木匡：太鼓の胴。

〔原文〕有神龜年中銘字

〔訓読〕神龜年中の銘字有り

〔原文〕墨未磨滅

〔訓読〕墨未だ磨滅せず

〔原文〕或有去魔犬二口

〔訓読〕或いは去魔犬(こまいぬ)二口有り

〔原文〕神供竈瓶子磁器神樂之獅子頭抹金牛王寶印鰐口等盡皆往古器物

〔訓読〕神が供す竈瓶子の磁器、神樂の獅子頭、抹金の牛王の寶印、鰐口等は、盡く皆往古の器物なり

※竈瓶子の「子」をどうしましょう？

〔原文〕弗目今調度也

〔訓読〕目今の調度に弗ずなり

〔原文〕法印別當造新堂

〔訓読〕法印の別當、新堂を造り

〔原文〕桁行六間梁間二間

〔訓読〕桁行六間、梁間二間

〔原文〕習昔流舩之數云

〔訓読〕昔の流舩の數に習うと云う

〔原文〕近年太守巡縣之日謂此三社

〔訓読〕近年太守縣を巡る日、此の三社を謂う

〔原文〕 曰其因縁別當白于公廳

〔訓読〕 其の因縁を曰て、別當公廳に白して

〔原文〕 得此公材造之

〔訓読〕 此の公材を得て之を造る

〔原文〕 別當乞吾於三社直扁

〔訓読〕 別當、吾に三社の直扁を乞う

〔原文〕 書與

〔訓読〕 書して與ふ

〔原文〕 立華表也下社受同邑林正寺請

〔訓読〕 華表を立てば、社を下して同邑の林正寺の請を受く

〔原文〕 又授戒興行

〔訓読〕 又授戒して興行す

〔原文〕 出戒子三百五十六人也

〔訓読〕 戒子三百五十六人を出だすなり